

オカピ通信

第7号

よく耳にするようになったけれど…

プラ問題、

何が問題？

2023年10月は、水面下でいろいろと進行させたり、日々の雑事に追われたりしているうちに過ぎて行きました。いつもはオカピの活動を中心に紹介しているオカピ通信ですが、今回はネタ不足です。そこで今回は趣向を変えて、プラスチックがもたらしている問題のおさらいをしたいと思います。

生態系への影響

「プラスチック問題」と聞いて、真っ先に思い浮かぶのは、漁網が絡まったカメラや、プラスチックを大量に飲み込んだクジラの映像ではないでしょうか。推計の値には幅がありますが、毎年数十万〜百万匹以上の生物がプラスチックによって死んでいるとされています。漁具が絡まったり、プラス

チックを誤食したりすることによる影響のほか、マイクロプラスチックによる影響も懸念されています。

地球温暖化への影響

プラスチックは基本的に石油が原料ですから、焼却時には化石燃料由来の二酸化炭素が発生することになります。

それに加えて、石油の採掘・プラスチックの生産・輸送に使われるエネルギーも、ほとんどが化石燃料由来。2050年には、世界で排出される二酸化炭素のうち約15%がプラスチック由来になると推測されています。

人間活動への影響

すでに、プラスチックによって大きな影響を受けている人もいます。

廃棄物の管理が不十分な開発途上国の人たち、その中にはプラスチックが溜まりやすく、人々は汚染された土や水、焼却時の煙などによる健康被害を受けています。

漁業や海運業、観光業に携わる人の中には、プラスチックが漁具や機械に絡まったり、プラスチックが景観を損ねたりするために経済的な損失を受けている人もいます。

マイクロプラスチック 影響は未知数

1辺が5mm以下の小さなプラスチック片のことをマイクロプラスチックといいます。これは、大きなプラスチックが劣化した、砕けるなどして生まれます。研究が始まったばかりで人間を含む生物への影響ははっきりしていませんが、環境中に浮遊していたり、添加剤としてプラスチックに混ぜられていたりする化学物質を生物の体内に運び込むと言われています。小さいため回収は難しく、生態系の中で分解されることもほぼありません。小さいですが、大きな問題をはらんでいる厄介者なのです。

想像力をはたらかせよう

身近にプラスチックの悪影響を感じることはなかなかありません。ただ、世界有数のプラスチック排出国である日本の、私たちの暮らしが生態系や世界の人々に影響を与えているのは事実です。

目の前にあるプラスチック製品がたどる道のりを、時には立ち止まって考えてみるのもいいかもしれません。

オカピの目

昨今、プラスチック問題に関する話題を耳にすることが増えました。環境によくない、とは聞いていても、何がどうよくないのか、説明するのは意外と難しいものです。

世界中で生産・廃棄されるプラスチックに関する統計は、出典によって数値もまちまち。環境への影響も不明な点が多く、問題の不明瞭さに輪をかけています。

プラスチックは過去数十年で全世界に普及しました。その便利さが諸刃の剣となっていて、生態系や人類を脅かしています。自分なりのルールを決めて、プラスチックと上手に付き合いたいものです。

製作：岡田香織（サキガケ日置市（移）民） ご意見等は okadakaori.p@gmail.com まで。

親子で協力してクリスマスツリー作り



クリスマスを目前に控えた10月17日、日置市の中央公民館で親子を対象としたクリスマスツリーづくりのワークショップがありました。ひよし図書館の職員さんによる「もったいないばあさん」の読み聞かせのあとは、日吉町在住の大塚さんとコラボして、アップサイクルのクリスマスツリーづくり。大塚さんの指導のもと段ボールでツリー本体を作り、プラスチックから作ったオーナメントを飾りました。

じっくりと取り組んで完成したツリーはそれぞれに個性が表れたオンリーワン。物を大切にしながら、楽しくクリスマス準備ができました。